

採用活動時期の変更、学校の就職指導関係者の6割が反対。 企業も約7割が反対と回答。

— 2016年度の採用活動・就職活動スケジュール変更に関するアンケート —

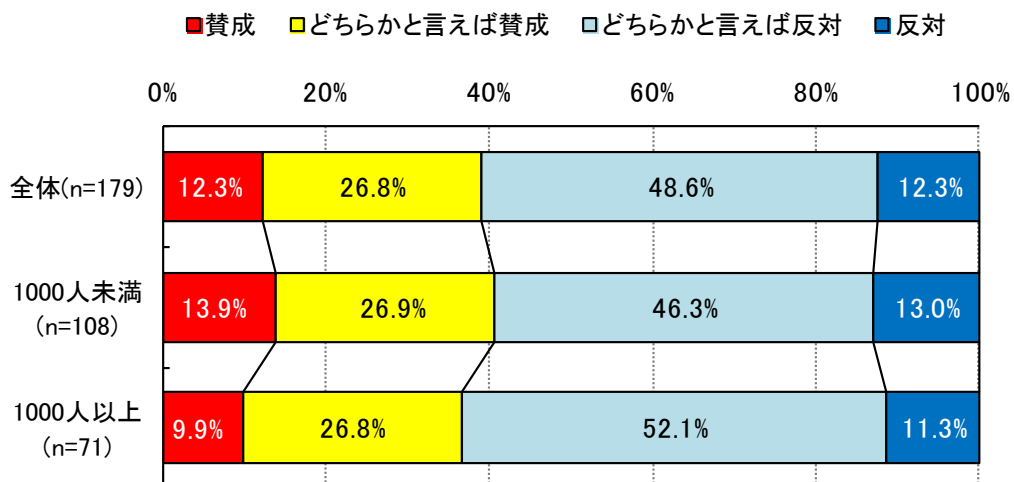
人材総合サービス企業のエン・ジャパン株式会社（本社:東京都新宿区、代表取締役社長:鈴木孝二）が運営する、学生向け就職情報サイト『[en]学生の就職情報』（<http://gakusei.enjapan.com/>）上で、「大学就職課」「企業」「2016年3月に大学を卒業する学生(現在の大学2年生)」を対象に、「2016年度の採用活動・就職活動スケジュール変更」についてアンケートを実施しましたので、以下概要をご報告します。

【調査概要詳細】

1. 【就職指導関係者】60.9%の大学・短大・専門学校の就職指導関係者が、就職活動時期の変更「反対」と回答。(図1)

大学・短大・専門学校の就職指導関係者に就職活動時期の変更についてきいたところ、「賛成」「どちらかと言えば賛成」は39.1%、「反対」「どちらかと言えば反対」が60.9%となり、反対意見が半数を超える結果となりました。

【図1】 2016年入社新卒採用からの活動時期後ろ倒しについての意見 ※全体・現2年生の在籍人数別



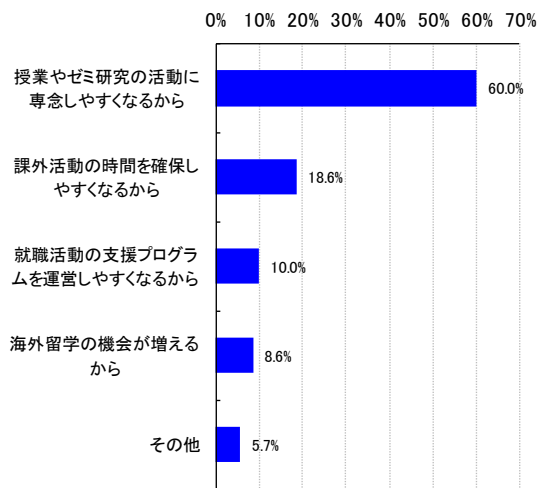
2. 【就職指導関係者】反対理由は、「活動期間が短くなることで、準備不足の学生が増えるから」が最多。
 (図2、3、コメント1)

活動時期の変更の反対理由として最も多かったのは、「活動期間が短くなることで、準備不足の学生が増えるから」でした。

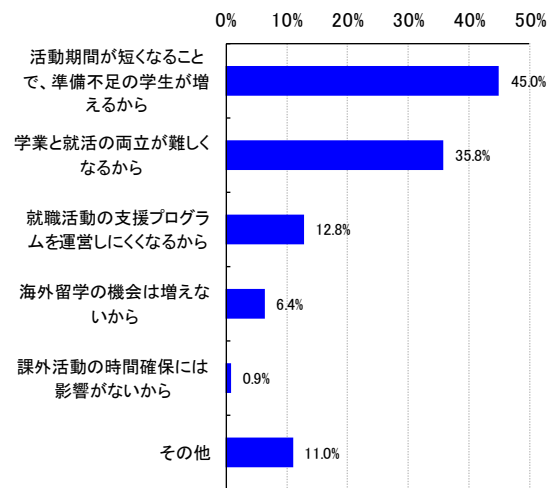
また、活動時期の変更について不安に思うことは、「就職できないまま卒業する学生が増えそう」「卒論・研究室活動と就職活動が重なってしまう」「直前に就職活動をした先輩が既に卒業しており、有益な情報や支援が得にくい」などが挙げられました。

活動時期の変更により活動期間が短期化し、「内定率低下」や「卒論や研究などの学業と重なり、学生の負担が増えること」に対する懸念がうかがえます。

【図2】「賛成」「どちらかと言えば賛成」の選択理由



【図3】「反対」「どちらかと言えば反対」の選択理由



【就職指導関係者コメント1】就活スケジュール変更について不安に思うこと

- ・就職できないまま卒業する学生が増えそうなこと（私立／女子大／関東）
- ・就職浪人が増えるのではないかと不安です。（国公立／大学／近畿）
- ・直前に就職活動した先輩が既に卒業しており、有益な情報や支援が得づらくなる。（国公立／大学／東海）
- ・理系の大学は4月以降、卒論・研究室活動と就活がバッティングしてしまう点。（私立／大学／関東）
- ・薬学生は国家試験を控えているので、9月以降は国家試験モードに集中しないと、国師合格率に影響が生じる可能性がある。（私立／大学／関東）
- ・現状でも、夏休み中に就職が決まらない学生は後期になると卒業研究に追われて、就職活動ができない状態となっている。2016年以降はその割合が増加する懸念がある。（私立／女子大／関東）

3. 【就職指導関係者】活動時期の変更に対する対策として、 「例年通りの時期にガイダンスを実施」と回答した企業が多数。(コメント2)

就職活動時期の変更への対策について聞いたところ、「元々学生はスタートが遅いので、後ろ倒しせず今までと変えない準備でガイダンスの充実をはかる」「例年通りのスケジュールで早期から就活を行うよう促していく」など、ガイダンスの開始時期を現行と変更しない、という回答が目立ちました。「就職活動が本格化する3年生3月までの準備が重要になるため、ガイダンスのスケジュール変更は行わない」と考えている大学就職課が多いことがわかる結果となりました。

一方、「対策を検討中」といった回答もあることから、まだ情報収集段階であるため、現時点では具体的な対策を考えられていない大学就職課もあるようです。

【就職指導関係者コメント2】就活スケジュール変更への対策

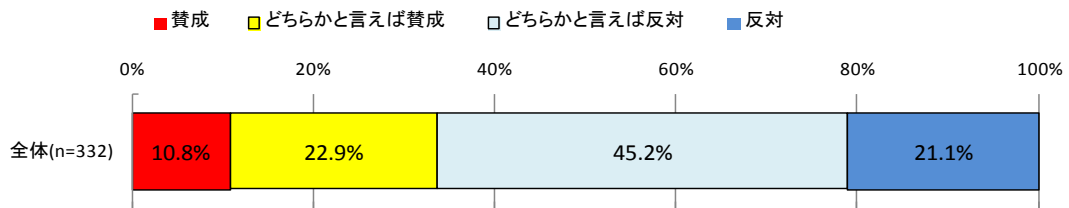
- ・これまでと変わらない。(私立/短大/関東)
- ・就職活動が本格化する3年生3月までの準備が結局は重要になるため、ガイダンスのスケジュール変更は行わない見込み。(私立/大学/関東)
- ・元々多くの学生はスタートが遅い。後ろ倒しを考えず、今までと変わらない準備で充実をはかりたい。(私立/大学/関東)
- ・早期に採用活動が始める企業・業界向けに、前期から意識付けを行うような講座を予定。(私立/大学/関東)
- ・ガイダンスやセミナー時期の見直し。(国公立/大学/関東)
- ・現在行っている就職支援プログラムを後ろ倒しの日程に合わせて開催をしていけるのか、検討を重ねている。(私立/大学/関東)
- ・現在のところ、具体的に決まっていません。(私立/大学/九州・沖縄)

4. 【企業】66.3%の企業が採用活動時期の変更に「反対」。(図4~6)

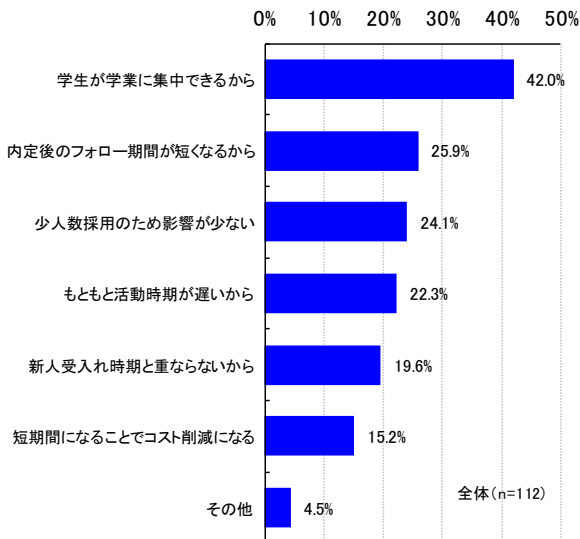
企業に採用活動時期の変更について質問をしたところ、「賛成」「どちらかと言えば賛成」が33.7%であったのに対し、「反対」「どちらかと言えば反対」が66.3%となりました。

採用活動時期の変更について、最も多くの企業が反対理由として挙げたのは「選考時期の集中で競争が激しくなるから」でした。

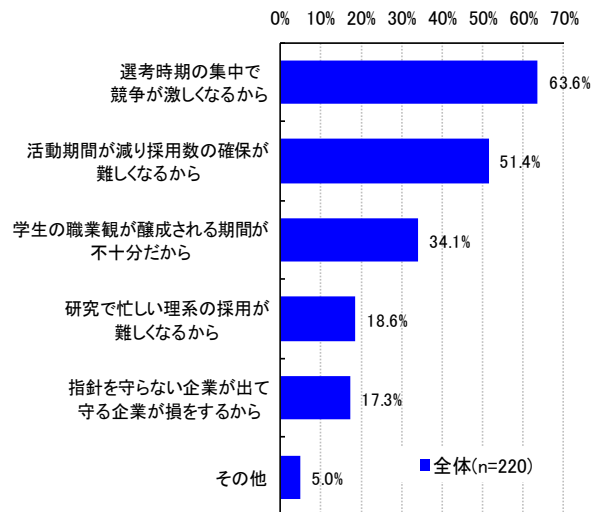
【図4】16年度から採用活動時期が変更になることに対する意見



【図5】「賛成」「どちらかと言えば賛成」の選択理由



【図6】「反対」「どちらかと言えば反対」の選択理由



5. 【企業】活動時期変更で不安に思うこと、 「短期化により、大手企業に集中する可能性」。(コメント3)

活動時期の変更で不安に思うこととしては「短期間で中小企業に目を向けてもらえるかどうか不安」「企業研究や入社意思の醸成に費やす時間が大幅に減ると思うので、入社後のミスマッチにつながるのでは」などが挙げられました。

【企業コメント3】企業の声（活動時期変更で不安に思うこと）

- ・企業の採用活動の短期化もさることながら、学生の企業研究や入社意欲の醸成に費やす時間が大幅に減ると思うので、入社後のミスマッチにも繋がるのではないかという不安がある。全体的に見ても、誰が得をするのかさっぱり分からない。(メーカー/300名未満/東海)
- ・大手企業に集中する可能性が大きいかも。逆に中小企業への希望学生が選別され、優秀な学生を選考できる可能性もあると思う。(メーカー/1001名~3000名/関東)
- ・学生の大手志向が戻りつつある中で、短期間に中小企業にも目を向けてもらえるかどうか。(流通・小売/300名~1000名/関東)
- ・採用競争力に劣る中小企業が圧倒的に影響を被る。(情報・通信/300名未満/関東)
- ・大企業などがバッティング対策として多めに内定出しをすることがあると、採用市場から比較的早めに学生がいなくなっていくのかも知れないという点。(サービス/1001名~3000名/関東)

6. 【企業】活動時期変更への対策、「説明会の回数を増やす」「情報発信の強化」。 (コメント4)

採用活動時期の変更への対策についてきいたところ、「説明会の回数を増やす」「就職サイトや自社HPへ採用関連の露出を増やす」などが挙げられました。短期間で学生に認知をしてもらうためには、接触頻度や露出度を高めることが必要だと考えているようです。

【企業コメント4】企業の声（活動時期変更への対策）

- ・直接的な会社説明のできる校内企業説明会及び会社（自社）説明会の回数を増やす。(メーカー/1001名~3000名/関東)
- ・会社説明会の頻回数多くする。大学内説明会の状況をしっかり把握し、積極的に参加する。(メーカー/300名未満/東海)
- ・ナビや学内セミナーを活用してできる限り学生が望む情報を提供できるようにする。(商社/300名未満/近畿)
- ・通年採用から、時期を後ろ倒し（大手企業の本格採用時期が終わってから）することを検討。(情報・通信/300名未満/関東)
- ・インターンシップを実施すること。また、併せて「就職サイト」および「自社HP」へ採用関連の露出をふやす。(PR期間を長く確保することで、認知度を向上させる。)選考後のフィードバックを充分に行う。(サービス/300名~1000名/東海)

【学生 聞き取り調査】

7. 【学生】就職活動の後ろ倒しに対する不安、 「短期化により就職先が決まらないこと」「学業との両立」の声も。(コメント5)

「[en]学生の就職情報2015」に登録している2016年卒の学生に、就活の後ろ倒しに対して「不安に思う点」を聞いたところ、「就職活動期間が短いため、決まらない場合の猶予が短い」「時間が足りなくて就職できないかが不安」といった“短期化により、就職先が決まらないことに対する不安”や、「卒業制作と就活時期が被る」「卒論に影響が出る」などの“学業との両立に対する不安”が挙げられました。

一部、「企業の混乱が学生に影響を及ぼさないか不安」といった“企業の混乱に対する不安”も見られました。

【学生コメント5】就職活動の後ろ倒しに対して、不安に思う点。

- ・就職活動期間が短いため、決まらない状態の場合の猶予が短い。これまで通りなら1年以上活動していけるが、後ろ倒しされたらそれができない。日本の就職システムでは学生での新卒就職が当たり前かつ、採用されづらい卒業後就職活動者よりも有利なのだから、学生で頑張れる期間が長い方がいい。(女性/文系)
- ・多くの企業の面接を受けられないため、就職浪人してしまうのではないかという不安がある。(女性/文系)
- ・内定期間と卒論提出がかぶっていて不安。(女性/文系)
- ・卒業研究との両立。公務員試験、大学院試験を併願できなくなる。(男性/理系)
- ・企業側の混乱がこちらに悪影響を及ぼさないか。(女性/理系)

7. 【学生】就職活動の後ろ倒しに対する対策は「インターンシップへの参加」。 (コメント6)

就職活動の後ろ倒しへの対策を聞いたところ、多くの学生が「インターンシップへの参加」と回答しました。また、「企業研究」や「業界研究」などを挙げる学生もおり、学生自身が開始時期の後ろ倒しに対して危機感を感じて、手を打っている(打とうとしている)ようです。

【学生コメント6】就職活動の後ろ倒しに対して、どのような対策を行っていますか。 また行う予定ですか。

- ・インターンに参加できる機会が増えているので、様々な企業のインターンに参加してそれぞれの業界・会社の雰囲気を感じようと考えている。(女性/理系)
- ・インターンなどに2、3年次から積極的に参加する。(女性/文系)
- ・インターンシップにたくさん参加したり、資格習得など。(女性/文系)
- ・卒業研究の負担が少ない研究室に入るため、成績を上げる。(男性/理系)
- ・資格の勉強を早いうちにして取っておく。インターンに参加しておく。(女性/文系)
- ・特に考えていない。思いつかない。速まろうが遅かろうがする準備をしていっただけだと考えている。(女性/文系)

【調査概要】

<就職指導関係者調査>

対象：全国の大学・短大・専門学校の就職指導関係者
 期間：2013年8月7日～8月21日
 方法：E-mailによるWeb投票画面の配信、電話による直接ヒアリング
 有効回答数：180名

■学校区分1

国公立	私立
22.8%	77.2%

■学校区分2

大学	女子大	短大	専門学校	その他
84.4%	11.1%	2.8%	1.7%	0.0%

■現2年生(16年度卒業学生)の在籍数

200人未満	200人～ 499人	500人～ 999人	1000人～ 1999人	2000人以上
7.8%	28.9%	23.9%	20.0%	19.4%

■所在地

東北・北海道	北陸	関東	甲信越	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄
5.6%	1.7%	49.4%	1.1%	10.6%	23.3%	2.8%	1.1%	4.4%

■就職支援対象学生

文理混合	文系のみ	理系のみ	その他
43.3%	38.9%	14.4%	3.3%

<企業調査>

対象：「[en]学生の就職情報パートナーズNEWS」登録企業
 期間：2013年8月2日～8月13日
 方法：E-mailによるWEB投票画面の配信
 有効回答数：332件

■本社所在地

東北・北海道	北陸	関東	甲信越	東海	四国	中国	近畿	九州・沖縄
2.4%	0.6%	51.8%	1.5%	18.7%	2.1%	2.1%	18.4%	2.4%

■企業規模

300名未満	300～1000 名未満	1000～3000 名未満	3000名以上
54.5%	30.1%	10.5%	4.8%

■業種区分

メーカー	商社	流通・小売	金融	マスコミ	情報・通信	サービス	その他
25.3%	12.3%	9.3%	1.8%	3.0%	22.3%	14.8%	11.1%

<学生※聞き取り調査>

対象：「[en]学生の就職情報2015」に登録している2016年卒学生
 期間：2013年8月7日～8月21日
 方法：E-mailによるWEB投票画面の配信
 有効回答数：33件